

藤井寺市観光ボランティアの会

美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1(藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)

TEL:072-939-1086 FAX:072-936-9777

URL:http://www.fujiidera-kanko.info/volunteer/volunteer_top.html

第13号 2014年6月

《平成26年度に向けて》

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 小野常芳

平成26年度会長を拝命しました小野でございます。当会が発足以来8年、会長として3年を務めましたが、途中大きな波瀾もなく順調に発展してきたと思います。

前年度はガイド件数55件となり、冬期と夏期を除き年間毎週2回以上のガイド実績を上げるまでになりました。その7割以上の参加者が市外からでした。また、市内の多くの行事にも参画することとなり、当会の目的である地域おこしにも寄与しております。

古市古墳群の世界遺産登録推進運動も徐々に進行し、当会の役割が大いに期待されてきております。この8年間の活動の見直しを行い、来期に迎える設立10周年を契機に、さらに充実した活動を展開してまいりたいと存じます。

会員各位のあふれるばかりの「おもてなし精神」で楽しく活動する姿が当会の象徴であり、今年度もモットーとして「ともに楽しく！ともに学ぼう！」といたします。

《平成26年度の活動について》

ガイドについては、広報活動の成果もあって、市外のお客さんからの依頼が着実に増えています。

今年度も地元の活性化の一助となる活動を心掛けるとともに、古市古墳群の世界文化遺産登録推進を意識して、活動の質的向上を目指します。また、58名全会員間の融和を更に高め、益々元気で楽しくボランティア活動に取り組みたいと思います。(事務局 岩崎)

《ふじいでら新風土記》



ホームページに「ふじいでら新風土記」ページを新設しました。藤井寺市および周辺の素敵な歴史や風物、写真などをご紹介します。

- 「ふじいでら歴史探訪」では、あまり知られていない歴史などを紹介します。
- 「ふじいでら新風土記」では、素敵な、めずらしい“もの・こと”や行事などを紹介します。
- 「ふじいでらナイスビュー」では、最近の美しい風景や歳時などを撮影した写真を逐次掲載します。

(鈴木)

《道明寺天満宮梅まつり》 2月15日(土)～3月13日(木)

道明寺天満宮では、毎年恒例の梅まつりが開催されました。今年は、寒い日が続き大雪にも見舞われ、2月末ごろようやく咲始め、3月に入ると満開になりお客様も大変喜んでおられました。

当会では、梅まつりの期間中、境内に観光案内のブースを22日間設け、訪れたお客様に、「天満宮の縁起」、「古市古墳群の観光地図」等を配布、説明なども行い、お客様の要望によっては境内や周辺のミニガイドも行いました。ブースの設置期間に訪れたお客様は、藤井寺市を中心に神奈川、兵庫、奈良、大阪市内、南河内の方々でした。団体にミニガイドを希望する方達を加えると2千人を超えました。

梅花祭には、気温もまずまずで他府県や市町村の団体、そして家族連れや個人のウォーカーなどが大勢参拝に訪れ観梅を楽しまれました。また、当会のブースにも沢山のお客様が立ち寄り、熱心に説明を聞いて頂き、皆様と会話を楽しみながら、無事に活動を終える事が出来ました。

なお期間中に募集しました奉納俳句については、当会のホームページなどで入選句を紹介しています。当催しにご参加いただいた皆様、ご協力いただいた団体・皆様にお礼申し上げます。 (衛 藤)

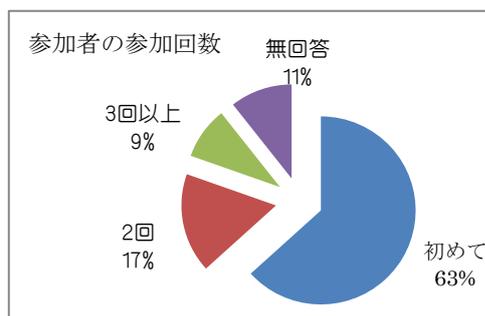
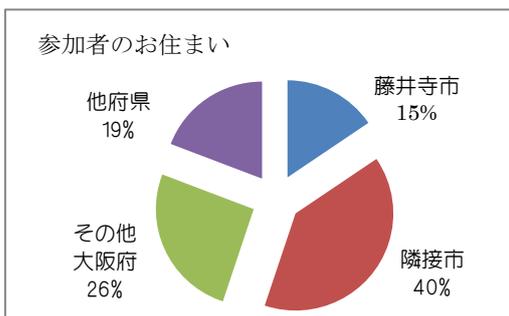


《春季ふじいでらウォーク》 3月29日

花冷えの中、当初参加者の出足が鈍く案じていましたが、最終245名の参加をいただき順調にスタートできました。道明寺天満宮で五分から七分咲きの桜を見て出発。道明寺と久保医院のしだれ桜の見事さにおもわず歓声があがりました。仲姫皇后陵古墳、古室山古墳、大鳥塚古墳、応神天皇陵古墳と古墳通りを経て、図書館でシユラを見学し、その後大水川散策公園を通り、ふれあいランドにて昼食をとりました。

午後からは、大水川・落堀川沿いの桜を見上げながら、一路津堂城山古墳へ。参加者から「藤井寺市内でこれほど立派な桜並木が見られるとは」と驚きの声があがりました。続いて善光寺、葛井寺を経て、最終藤本酒造醸へ到着。甘酒や試飲のお酒がウォークの疲れを癒してくれました。

今回ご夫婦で参加された方も多く、桜は五分咲きでしたが、お二人の仲はきっと満開だった事でしょう。ご参加頂いた大勢の皆様、楽しい一日を本当に有り難うございました。またご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。 (赤 木)



《ガイド部だより》

平成25年度下半期(10月～3月)の一般申込みによるガイド実施件数は30件で、計507名の方々をご案内しました。

10月は例年に無く台風が襲来し、延期・中止による日程の変更等が発生しましたが、前年度下半期の12件に比べ倍増のガイド件数で、来訪されたお客様には、会作成の「オリジナルマップ」をお配りし大変喜んで頂きました。

今年度も「おもてなしの心」を忘れることなく、元気で楽しく活動したいと思います。 (樽 野)

《平成 29 年度登録を目指して》

本年4月、日本が世界遺産に推薦していた「富岡製糸場と絹産業遺産群」が6月にも正式決定するとの各種報道があったこともあり、現在、準備が進められている百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録への関心が高まっています。

百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録推進本部は、平成25年11月、世界遺産登録の目標を平成29年度に据えて、各種事業を推進していくことを決めました。そして、現在ユネスコに提出する推薦書(原案)を平成26年度中に作成することを目指して、検討作業が進められています。

あわせて、世界遺産登録に必要な古墳周辺の緩衝地帯の設定やその地帯内での建物の高さ制限、外観規制、屋外広告規制などの具体化も進められています。その内容については、明らかになっていませんが、藤井寺市や関係自治体は、本年度中に緩衝地帯での規制などについて、住民に理解を求める説明会を開催する予定にしています。

最近では、古墳をめぐる市外からの人たちも増えています。地元からも、一層登録に向けた機運の高まりが期待されています。(勝 部)

《葛井寺 ふじまつり》



当会は今年も、葛井寺境内にて行われた藤まつりの時期に合わせて、4月20日から5月6日まで、南大門北側にテントブース

を開設しました。葛井寺や古市古墳群関係の資料、古墳の写真や古墳群マップのパネル、ミニサイズ古墳模型などを置いて、参詣される方々をお迎えした結果、期間中約1400名のお客様にお訪ねいただきました。

今年も境内や近辺のミニガイドを行ないましたが、古市古墳群を巡る観光コースや個々の天皇陵に関する問い合わせが多く、やはり世界遺産登録推進活動の成果かと思えます。

毎年このテントブースを設けることで多くの方々との出会いがあり、地元の歴史や古市古墳群などについてお伝えできる機会をいただいています。お訪ね下さった皆様、葛井寺や藤まつり関係者の方々をはじめ皆様に感謝申し上げます。

(岡 田)

《小学校の世界遺産学習》

藤井寺南小学校6年生 4月28日実施

藤井寺市教育委員会が進めている市内全小学校の6年生を対象とした、世界遺産学習の一環である『市内歴史遺産のフィールドワーク』のサポートに、文化財保護課の方々と共に参画致しました。

当日、私達は藤井寺南小学校の6年生80名を応神天皇陵古墳外堤にて出迎え、応神天皇陵古墳・古室山古墳・鍋塚古墳・三ツ塚古墳等の10ヶ所を案内致しました。

私が担当した赤面山古墳では、古墳のあまりの小ささに皆驚きの声を上げていましたが、どの子供達からも学校での授業の成果を、今度は自分の目で確認して見たいとの思いが伝わって来ました。たとえ赤面山の様な小さな古墳であっても、貴重な歴史遺産として守って行く事の大切さを、少しは伝えられた事と思えます。

参加された未来ある子供たちが、此れを機会に世界に誇る藤井寺市の『歴史と価値』を認識し、我が故郷として藤井寺市を愛し誇りを持って進んで行って頂ければ幸いです。



大鳥塚古墳

(森 岡 清)

《大阪大学総合学術博物館見学会》

3月14日に大阪大学総合学術博物館「野中古墳と倭の五王の時代」企画展に当会の見学会を実施いたしました。野中古墳は、現在世界遺産登録を目指して活動が薦められている「百舌鳥・古市古墳群」に存在し、5世紀代に築造された方墳(辺37m)です。この古墳からは11領の甲冑などと数多くの臼玉などの滑石製模造品が出土しています。

今回の企画展ではこれらが展示され、5世紀の「倭の五王」の時代に思いを馳せ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。(高 橋)



野中古墳の武具

国府遺跡物語その二

けつしょうみみかざり

一人骨と玦状耳飾の出土一

山崎直方さんの国府遺跡発見ニュースを知った多くの人が遺跡を訪れました。なかでも神戸在住の福原潜次郎さんは頻りに遺跡を訪れ、多量の遺物を採集されました。京都帝国大学の濱田耕作さんは、そのなかでヨーロッパの旧石器に似た大型石器に注目しました。濱田さんは大正6(1917)年6月その出土層位を確かめる発掘調査を決行したのです。この発掘では、旧石器似の石器は弥生時代の産物だとの結論になったのですが、意外な成果がもたらされました。人骨の出土です。その後、幾人もの考古学者、人類学者が国府遺跡で発掘を行い、現在までに90体もの人骨が出土しています。人骨は大きく分けて、縄紋前期、縄紋晩期、弥生時代のものです。そのうち、縄紋前期人骨ではきれいな石で作られた玦状耳飾を装着した人骨が注目されました。玦状耳飾はドーナツを押しつぶして一端に切れ目を入れたような形をしていて、耳に開けた穴に差し込んで装着します。中国の新石器時代の玉器、玦に似ているということで玦状耳飾と呼ばれることになったのですが、これが中国由来なのか、日本列島自生なのか議論がありました。最近では中国と日本の出土品の比較研究が進み、中国から伝わった可能性が高いと考えられるようになってきました。

藤井寺市教育委員会 天野末喜



(写真キャプション)

玦状耳飾を装着した模型[藤井寺市教育委員会]

古墳のある風景 4 エッセイスト 川上 恵

ヒーロー

神話でのヒーローと言えば、まずこの人。

古事記では倭建命、日本書紀では日本武尊と記されるヤマトタケルである。

乱暴者ということで父親に疎まれ、熊襲や蝦夷征伐に東奔西走させられるが、伊吹山で病を得、能褒野で亡くなってしまふ。白鳥陵と称されるものが三基ある。白鳥と化したタケルが飛び立ち、そして舞い降りた場所である。

私は俄考古学ファンとなって、三重県の能褒野と奈良県の琴弾原を訪ねた。どちらの陵も、鬱蒼とした、やぶ蚊の多い雑木林のようだった。陪冢に名前はなく「は号」「へ号」などと、小さな標識が立っている。埋葬されている人はさぞや肩身が狭いだろうと、私はいらぬ心配をする。河内生まれ河内育ちの私は思うのだ。タケルの陵墓は古市古墳群で七番目に大きい、日本武尊白鳥陵こそが相応しいと。

満々と水をたたえた濠には水鳥が揺蕩う。

父タケルに憧れた仲哀天皇が、父の魂は白鳥になって天に昇ったと信じ、全国から白鳥を集め陵に放ったと言う美しい話に胸を打たれる。

悠然とした墳墓は、悲劇を生きたタケルを慰める安らかさ清々しさである。



日本武尊白鳥陵古墳